



環境かわら版

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

2021年3月号（第298号）

特集1

「第5次愛知県環境基本計画」を策定しました

特集2

「あいち生物多様性戦略2030」を策定しました



「2021 愛知環境賞」の表彰式を行いました (P3)



前回の様子（キッズインタープリターデビュー）
「もりの学舎まつり」を開催します (P6)



オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします
(P9)



愛知県は「SDGs 未来都市」として、
SDGs（持続可能な開発目標）の達成
に向けた取組を推進しています。

「環境かわら版」
Web ページは
こちらから



今月号とバックナンバーを掲載しています。



愛知県では、県環境基本条例に基づき、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、環境基本計画を策定しています。

第4次計画の策定から6年余りが経過し、その間の社会経済情勢の変化等に対応するため、2040年頃までの長期を展望した上で、2030年度までの間に取り組むべき施策の方向を示す「第5次愛知県環境基本計画」を策定しました。

1 策定の趣旨

本計画は、県環境基本条例第9条に基づき、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するものです。

2 期間

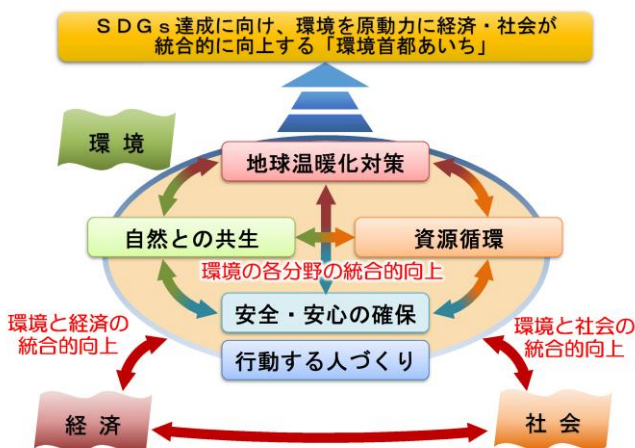
2021年度から2030年度まで（10年間）

3 目標

SDGs達成に向け、環境を原動力に経済・社会が統合的に向上する「環境首都あいち」

4 環境施策の方向

SDGsの達成を加速するため、「地球温暖化対策」、「自然との共生」、「資源循環」、「安全・安心の確保」の各分野について、新たな課題への対応も含め取り組むとともに、SDGsを理解・認識した「行動する人づくり」やパートナーシップによる連携・協働を推進します。



計画の目標

5 特徴

(1) 目指すべき3つのあいちの姿の設定

○環境の各分野の統合的向上

日本一環境にやさしいあいち

○環境と経済の統合的向上

環境と経済成長が好循環しているあいち

○環境と社会の統合的向上

地域が活性化している魅力あるあいち

(2) 環境の各分野の関連性及び経済・社会との関わり の明示

環境の各分野間の関連を示すとともに、経済や社会との関わりも記載しました。

(3) SDGs との主な関連性の明示

施策の方向とSDGsの17のゴールとの関連について、アイコンを使用して分かりやすく記載しました。

(4) 重点施策の設定

複数の課題（経済・社会分野を含む。）を統合的に解決する施策のうち、特にSDGsの多くのゴールに貢献する以下の9つの施策を重点施策に位置づけました。

- ①再生可能エネルギーの導入拡大・徹底した省エネルギーの促進と環境産業の振興/②次世代自動車の普及拡大/③「あいち方式2030」推進プラットフォームの構築/④地域循環圏づくり/⑤プラスチックごみゼロ/⑥食品ロスの削減/⑦海域の生物多様性や水産資源の生産性を考慮した水質改善/⑧SDGsの普及促進/⑨誰もが学べるあいちの環境学習による人材育成と自主的取組の促進

(5) 数値目標の設定

環境の各分野に数値目標（合計21項目）を設定しました。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyō/5kihonkeikaku.html>)



環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)

「2021 愛知環境賞」の表彰式を行いました



愛知県では、企業、団体などが行う資源循環や環境負荷の低減に関する先駆的で効果的なく技術・事業 < 活動・教育 > の事例を表彰する「愛知環境賞」を2005年3月に創設し、昨年までに211件を表彰してきました。

17回目となる今回は、40件の応募があり、選考委員会で先駆性・独創性、環境負荷低減効果、社会全体に対する波及・啓発効果などを総合的に審査し、金賞のCKD(株)を始め15企業・団体の受賞者を決定しました。

2月18日にホテルメルパルク名古屋で開催した表

彰式では、大村知事、環境パートナーシップ・CLUB の寺師茂樹会長(トヨタ自動車(株)取締役・Executive Fellow)、中日新聞社の杉本研介事業局社会事業部次長、名古屋市の秋田重人経済局参事から、各受賞者に対して表彰状とトロフィーが授与されました。



「金賞」のCKD(株)

2021 愛知環境賞 受賞者一覧

賞の種類	受賞者	受賞事例
金賞	CKD(株)(小牧市)	先進的な自動化技術と流体制御技術による環境負荷低減への貢献
銀賞	加山興業(株)(豊川市)	循環型・低炭素・自然共生・地域共生社会を実現する中間処理業の先駆的環境経営モデル
銅賞	豊栄化学(株)(豊田市)	国内初の製鋼所向けRPF(IPB)の開発による環境負荷の低減と製造コストの削減
中日新聞社賞	豊橋中央高等学校(豊橋市)	リアカーボランティア 付加価値ある清掃・美化活動の実践
名古屋市長賞	(株)興和工業所(名古屋市瑞穂区)	鋼構造物の長寿命化に貢献する高耐食溶融亜鉛-アルミニウム合金めっき(SGめっき®)と再生めっき技術
優秀賞	(株)折兼、(株)パックススタイル(名古屋市区)	植物原料100%からつくられた生分解性食品容器「BB・WB・ABシリーズ」の商品化と事業展開
	(株)クリエイトエンジニアリング(岡崎市)	小型・軽量・低価格の自動切粉破砕圧縮機(NEOPACK®)の開発
	(株)サンリード(一宮市)	使用済みのウールを資源化した高品質再生ウールの製造方法
	(特非)祖父江のホタルを守る会(稲沢市)	さらなる夢は 豊かな自然を生かした地域の活性化 田んぼのホタルなど生物多様性回復の試みと啓発活動
	(株)タケヒロ(安城市)	自動車用防音部品材料の社内循環システムの事業化
	中部エコバイオ(合同)(小牧市)	使用済み天ぷら油を原料とした環境に優しい、国内初の生分解性チエンソーオイル製造・販売
	日本モザイクタイル(株)(常滑市)	環境に優しく意匠性と低コストを両立した世界初の湿式薄型タイル生産システムの確立
	ビジネスサポートOJT(株)(半田市)	日本初のムラサキイガイ殻のリサイクルによる地域循環ビジネスモデル
	(特非)マルベリークラブ中部(名古屋市区)	マルベリー(桑)の栽培と活用を通じた環境教育と養蚕文化の継承、並びに6次産業化による活動展開
ワタミ(株)(東京都大田区)	ワタミの愛知モデル Wリサイクルループ SDGs12 地域資源循環 × SDGs11 住み続けられるまちづくり	

※詳細は愛知環境賞のWeb ページをご覧ください。

(<http://aichikankyoushou.jp/>)



資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

愛知県では、現行戦略の計画期間が今年度で終了するため、この度、2030年度までに取り組む生物多様性保全の施策の方向性を示す「あいち生物多様性戦略2030」を策定しました。新戦略では、「人と自然が共生するあいち」の実現に向け、「生態系ネットワークの形成」と「生物多様性主流化の加速」を両輪とする「あいち方式2030」を推進していきます。

1 策定の趣旨

本戦略は、COP10から10年を経た本県の状況を総括し、SDGs（持続可能な開発目標）に合致した生物多様性保全の取組指針です。また、県民、市民団体、事業者、市町村などの多様な主体が、生物多様性の保全とその持続可能な利用に向けた様々な取組を進める上での具体的な行動の指針となるものです。

2 基本的事項

位置づけ：生物多様性基本法第13条第1項に基づく
生物多様性地域戦略

対象区域：愛知県全域

計画期間：2021年度から2030年度までの10年間

3 戦略の特徴

○「目指すべき姿」の共有

2050年ビジョンや2030年目標を定めるとともに、奥山、里地里山、平野、里海・沿岸、河川・水辺、湿地湿原といった生態系ごとに、今後目指すべき姿を示しています。

○中核的取組方針「あいち方式2030」

あいち方式2030は、「全ての主体がコラボレーション（協働）により、生物多様性の保全を進める」という考え方です。「生態系ネットワークの形成」と「生物多様性主流化の加速」を両輪とし、人と人とのつながりを育みながら、様々な施策を展開していきます。

○「重点プロジェクト」を設定

今後10年間で特に注力して実施する10項目の事

業を「重点プロジェクト」に決めました。

○県の行動計画と県民・事業者等の取組を提示

「まもる」「つなげる」「つかう」「ひろめる」という4つの基本方針を定め、生物多様性保全の施策を総合的に展開します。また、県民、市民団体、事業者、市町村に期待される取組を例示しています。

○地域への展開をサポート

地域（尾張、西三河及び東三河）ごとに、特徴や効果的な取組を紹介するなど、各地域における生物多様性保全の指針となる考え方を提示しています。

○成果指標として、37項目の数値目標を設定

この戦略は、自然環境課が地域連携保全活動支援センターとなって推進します。また、成果指標を用いて、進行管理や見直しを行います。

○多彩なコラムを掲載

参考情報として、市民団体や事業者による生物多様性保全に関する素晴らしい取組などを多数、コラムでご紹介しています。

4 策定の経緯

本戦略は、庁内の関係局各課で構成される庁内連絡会議及び有識者等から構成されるあいち生物多様性戦略推進委員会において検討を行ってきました。

2020年1月、2月には、県内3箇所地域ワークショップを行い、各地域の「伝えたい・残したい自然」をどのように残していくか、県民の皆さんからのご意見をいただきました。また、2020年12月1日から2021年1月4日までパブリックコメントを実施し、18人から計65件のご意見をいただきました。



地域ワークショップ

長期目標(2050年ビジョン)

人と自然が共生するあいち

様々な立場の人々が生物多様性への意識を高め、そのコラボレーション(協働)によって生きものがすむ場所が確保され、本来、その場所にいるべき野生の生きものと人が共に生きていけるあいち

計画目標(2030年目標)

人と自然の共生に向けて、生物多様性を主流化し、あらゆる立場の人々が連携して最大の行動をとることにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を社会実装し、その回復に転じる。

あいち方式 2030

全ての主体がコラボレーション(協働)により
生物多様性の保全を進める

生態系ネットワークの形成

科学的知見に基づく多様な主体の協働により、生物の生息生育場所を確保し、つなげていく。

生物多様性主流化の加速

県民の日常生活、企業や行政等の社会経済活動に生物多様性が組み込まれ、行動につながる。

重点プロジェクト

A 湿地・里山ネットワーク	F 鳥獣の保護・管理の推進
B 希少な動植物の保全	G 事業者の保全活動の推進 (あいちミティゲーションの深化)
C 外来生物対策の強化	H あいちの自然体感の推進
D 地域の保全活動の更なる活性化	I 国際連携の推進
E 都市の自然の価値再発見	J 推進プラットフォームの構築

基本方針

(豊かな生態系を)まもる

(生きものの恵みを)つかう

(生息生育空間を)つなげる

(人と自然との共生を)ひろめる

行動計画

5 戦略冊子の配布

戦略の内容は、下記のWebページからご覧いただけます。また戦略の冊子は、3月下旬以降に県内の市町村や公立図書館等へ送付するとともに、希望される方に配布する予定です。冊子の配布を希望される方は、メール又は電話でお申し込みください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/bdsenryaku.html>)



メール: shizen@pref.aichi.lg.jp

電話: 052-954-6475

※メールの場合は、件名を「あいち生物多様性戦略2030の冊子希望」として、①氏名、②日中に連絡がとれる電話番号をご記入ください。

〔自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475 (ダイヤルイン)〕



まなびや 「もりの学舎まつり」を開催します



愛・地球博記念公園内の環境学習施設「もりの学舎」では、名古屋キワニスクラブの協賛を得て、「もりの学舎まつり」を開催します。

キッズインタープリター（小学4年生～6年生）による自然体感プログラム「キッズインタープリターデビュー」や、インタープリターが出すヒントをもとに森の生き物を探す「森のいきもの大捜査線」、様々な自然遊びをする「森のアソビバ」などのプログラムを実施します。

また、「キッズインタープリターデビュー」と「森のいきもの大捜査線」に参加した方には、記念品をプレゼントします。



キッズインタープリター達が頑張ります

参加費は無料です。ご参加をお待ちしています。

1 日時 3月14日（日） 11:00～15:00

2 内容

(1)キッズインタープリターデビュー（事前申込制）

1回20分程度の自然体感プログラム

(2)森のいきもの大捜査線（当日受付）

もりの学舎周辺の森で生き物探し

(3)森のアソビバ（当日受付）

草花を使った自然遊びやいきものぬりえ

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/r2fes.html>)



雨天の場合、プログラムの変更があります。

〔環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208（ダイヤルイン）〕



もりの学舎 春休み特別企画を実施します



「もりの学舎」では、3月20日（土）から4月4日（日）まで、（一社）愛知県産業資源循環協会の協賛を得て、春休み特別企画を実施します。

期間中の土日（10:30～15:00の間で随時受付）には特別プログラムとして、リサイクル素材や身近な自然素材を使った工作教室「あそび工房」、自然の音をテーマにした自然遊び「こんこんなんのおと」を実施します。また、インタープリターと歩く森のツアーなど、通常のプログラムも実施しています。

参加費は無料で、事前申込は不要です。是非、春を感じに、もりの学舎へ遊びに来てください。

<特別プログラム>

1 あそび工房（所要時間：各20分）

- (1) 光の小箱
- (2) 森のフォトフレーム
- (3) えんぴつづくり

2 こんこんなんのおと（所要時間：15分）

木の枝でたたくことで色々な音を探し、自然の中の音を楽しみます。



えんぴつづくり

「あそび工房」



前回の様子

「こんこんなんのおと」

平日にも様々な楽しいプログラムを実施しています。詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/r3spr.html>)



〔環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208（ダイヤルイン）〕

「EV・PHV・FCV 普及加速フォーラム」を開催します



世界の地球温暖化対策が2050年のCO₂排出量実質ゼロを目指す方向へ大きく舵を切りつつある中、将来的な自動車からのCO₂排出ゼロに向けては、エネルギーの脱炭素化と並行して、走行時にCO₂を排出しないEV・PHV・FCVの普及（自動車ゼロエミッション化）加速が必要です。

そこで、愛知県では、2030年度のEV・PHV・FCVの普及目標と、その達成に向けた取組の方向性を示すため、「あいち自動車ゼロエミッション化加速プラン（仮称）」（以下、「プラン」という。）の策定を進めています。この度、プランの公表とキックオフに向けて、Webフォーラムを開催しますので、是非ご覧ください。

1 開催期間

3月26日（金）から3月31日（水）まで

2 開催方法

動画配信

3 参加費

無料（通信料は自己負担）

4 内容

(1) 基調講演

トヨタ自動車(株) トヨタ ZEV ファクトリー
FC 事業領域統括部長 はまむら よしひこ 濱村 芳彦 氏

(2) プラン概要説明

愛知県環境局地球温暖化対策課職員

(3) プラン策定検討委員へのインタビュー

・名古屋大学未来社会創造機構 教授

もりかわ たかゆき 森川 高行 氏

・(一財)電力中央研究所 特任役員

いけや ともしこ 池谷 知彦 氏

・愛知工業大学工学部 客員教授

ふじむら としお 藤村 俊夫 氏

5 視聴方法

開催期間中、下記 Web ページから講演等の動画をご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/xevforum2021.html>)

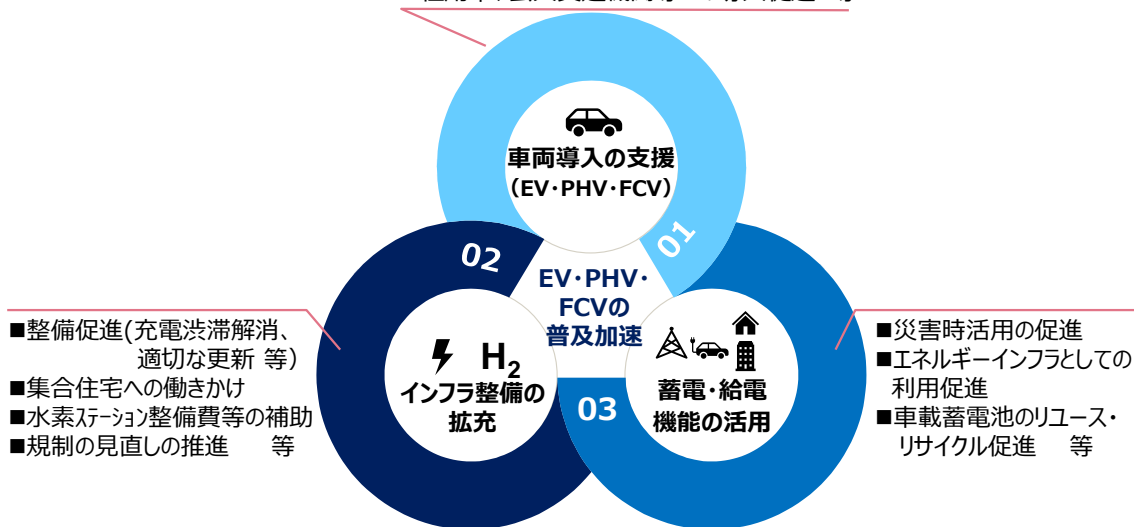


地球温暖化対策課 自動車環境グループ
電話 052-954-6217（ダイヤルイン）

【プランに基づく取組施策】

取組方針イメージ

- 普及啓発
- 導入補助、課税免除
- 公用車への率先導入・活用促進
- 社用車、公共交通機関等への導入促進 等



「プラスチック循環セミナー

～動脈と静脈の実態を踏まえて～ をオンライン配信します



海洋プラスチックごみが世界的な問題となっています。また、国内では外国政府の輸入規制による廃プラスチックの処理の停滞が懸念されています。

「モノづくり県」である愛知県でも多くのプラスチックが生産、使用されており、プラスチックの更なる循環利用が求められています。

こうした中、本県では今年度、県内のプラスチック製造から廃棄までの状況、循環利用の高度化への課題等を把握するための調査を実施しました。

その結果を取りまとめましたので、以下のとおりオンラインセミナーで報告します。

有識者の講演や先進事業者による事例紹介もありますので、是非お申込みの上、ご覧ください。

- 1 配信期間 3月15日(月) 8:00 から
3月21日(日) 24:00 まで
- 2 視聴方法 YouTubeによる動画配信
- 3 参加費 無料(通信料は自己負担)

4 プログラム

○講演: 東洋大学情報連携学部 教授 後藤 尚弘 氏
「プラスチック循環とライフサイクル CO₂」

○事例紹介1: 前田産業(株)
「マテリアルリサイクルを通じて見える実情と課題」

○事例紹介2: (株)毎日商会
「混合廃棄物からのプラスチックの高度選別」

○愛知県内のプラスチック循環に関する調査結果
について(愛知県環境局資源循環推進課)

5 申込方法

以下のURLからお申し込みください。

(https://www.exri.jp/aichi_rc_pr)



6 問合せ先

(株)エックス都市研究所中部事務所
電話: 052-485-5894

〔資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)〕

水質事故の未然防止にご協力をお願いします



工場等から河川や海等の公共用水域に油、有害物質などが流出する水質事故が、愛知県内で毎年100件以上発生しています。水質事故が発生すると、魚が死んだり、水道水の取水ができなくなるなど、大きな被害をもたらすことがあります。

水質事故は、発生させた原因者の責任です。原因者は、事故の影響がなくなるまで措置を行う必要があるとともに、措置費用の負担や被害に対する賠償を求められることもあります。

水質事故は、普段から事故を想定した対策を行うことで、未然に防ぐことができます。水質事故が発生しないよう、未然防止にご協力をお願いします。

Web ページに事故事例の詳細を掲載していますので、ご覧ください。

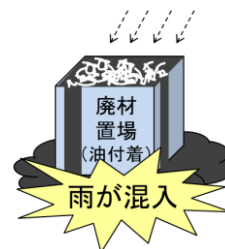
(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/0005.html>)



<発生原因の例>



運搬中の容器の転倒



屋外保管の廃材に雨水混入

<必要な対策>

- ・リスクを想定した保管方法や作業手順の確認
- ・配管、ポンプ、タンク等の定期的な点検 など

<応急措置の実施について>

万が一、水質事故を起こしてしまった時は、流出防止のための応急措置と関係機関(県民事務所、市町村等)への連絡を直ちに行ってください。

〔水大気環境課 水・土壌規制グループ
電話 052-954-6222 (ダイヤルイン)〕

オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします



人間活動によって他地域から持ち込まれた外来種の中でも、地域の生態系や皆さんの健康、農作物に悪影響を及ぼす「侵略的外来種」は、地域での適切な防除活動が極めて重要です。

侵略的外来種であるオオキンケイギクは、1880年代に観賞用や緑化用として日本に導入され、現在では愛知県内の河川敷や道路端などの草地に広く分布しています。繁殖力が旺盛で、絶滅危惧種を含む外来種を駆逐するため、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」に基づく特定外来生物に指定されており、栽培や生きたままの運搬等が禁止されています。

オオキンケイギクは、これからの季節である5～8月に黄橙色の目立つ花を咲かせます。地域の生態系を守るため、駆除活動への参加や、自己所有地における抜き取りなど、オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします。

本県では、オオキンケイギクの駆除を機会に、侵略的外来種を知っていただくとともに、地域での様々な侵略的外来種の駆除の取組を促進していきます。



オオキンケイギクの群落と花

詳細は Web ページをご覧ください。
(<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/index.html>)



〔 自然環境課 野生生物・鳥獣グループ
電話 052-954-6230 (ダイヤルイン) 〕



あえる

「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました



県民の皆さんに楽しく環境について学んでいただくため、愛知県環境学習施設等連絡協議会(略称:AEL ネット)に加盟する168の環境学習施設等が連携して、2020年9月1日から2021年2月28日まで「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました。

このスタンプラリーは、環境学習施設等への来館、環境をテーマとした講座・イベントへの参加により、スタンプを3個以上集めてご応募いただいた方の中から、抽選で図書カード等の記念品をプレゼントするものです。

今年度はこれまでの紙のスタンプ帳に加え、スマートフォン等でQRコードを読み取り、スタンプを集める「電子スタンプ帳」も導入しました。

スタンプラリーには多くの方にご参加いただき、記念品の抽選には1,000通を超える応募がありました。参加者からは、「子どもと一緒に楽しく学び、今

後の環境について考えることができた」「スタンプラリーをきっかけに様々な施設に行けた」「スマートフォンで気軽に参加出来るようになった」などの感想が寄せられました。

来年度の開催については、Web ページでお知らせしますので、是非ご参加ください。
(<https://ael-stamp.jp>)



AEL ネット環境学習スタンプラリー対象講座の様子



春日井市

「秋の自然環境学習会」



柿田公園管理事務所「エコきち」

「秋の葉っぱスタンプ」

〔 環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン) 〕

「生物多様性とSDGs 多世代フォーラム・ユース会議」を開催しました



生物多様性保全を切り口に SDGs 達成に向けた取組を考え、共有するために、多様な世代・主体を対象にした「生物多様性と SDGs 多世代フォーラム」を2月5日（金）に、ユース世代を対象とした「生物多様性と SDGs ユース会議」を6日（土）に開催しました。

オンライン形式で開催した「生物多様性と SDGs 多世代フォーラム」には、延べ200名の方が参加しました。午前のシンポジウムでは、国際自然保護連合日本委員会の道家哲平さん（どうかくてつぺい）による基調講演のほか、企業、地域団体、学生団体からの取組発表とパネルディスカッションが行われ、生物多様性を取り巻く現状や課題についての理解を深めました。

午後のテーマ別ディスカッションでは、3つのテーマごとに、生物多様性保全に関わる多様な世代、主体による取組発表や議論が行われ、SDGs 達成に向け連携を深めていくことの必要性を共有しました。

オンライン会場それぞれチームに分かれて議論が進められました。

今回のユース会議では、事前に学生委員会が検討した3つの会議テーマ「日常生活でできる持続可能な活動を見える化し、広めるには?」「地域の活性化と、生物多様性保全を同時解決する取組を考える」「生物多様性や自然について学べるまちづくり」について議論が行われました。参加したユースの皆さんは、テーマごとの取組アイデアについて、真剣ながらも楽しみつつ白熱した議論を進めました。



ユースによる取組アイデアの検討

会議の最後には、「生物多様性と SDGs ユース宣言」としてテーマごとに取組アイデアがまとめられ、「各世代に応じた実体験を伴う自然への関心や活動の促進」、「地域と連携した自然写真コンテストによる地域活性化」等の取組アイデアについて発表が行われました。



生物多様性と SDGs 多世代フォーラムの様子

また、6日の「生物多様性と SDGs ユース会議」は、リアル会場（愛知芸術文化センター）とオンライン会場の併催で行い、全国の参加者を含む計55名の次代を担うユースにより、活発な議論が行われました。

このユース会議に向けては、8月からユースによる準備組織である「学生委員会」が、会議テーマや議論の進め方等について企画を進めてきました。会議当日は、学生委員会のリーダー中尾壮良さん（なかお すら）（人間環境大学3年）等による挨拶の後、リアル会場、



集合写真（生物多様性と SDGs ユース会議）

〔 自然環境課 国際連携・生態系グループ
電話 052-954-6229（ダイヤルイン） 〕

1 禁漁が続く春のイカナゴ (コウナゴ) 漁

春の風物詩ともいわれるイカナゴ漁。愛知県では伊勢湾や三河湾で行われ、東北海域、瀬戸内海とともに日本におけるイカナゴの主要漁場となっています。



イカナゴ

イカナゴは1年で成熟して子どもを産み、約2~3年で寿命が尽きます。回遊性がなく、群れは各地に定着するため、伊勢湾や三河湾で漁獲されるイカナゴは、伊勢湾や三河湾とその周辺海域で一生を過ごす、ひとつの独立した資源です。しかし、近年、個体数の減少に伴い、伊勢湾や三河湾では5年(2016~2020年)連続して禁漁となっています。

伊勢湾や三河湾のイカナゴの資源管理のため、愛知県と三重県の漁業者及び水産試験場が調査や協議を行い、産卵親魚の保護や解禁日、終漁日の決定、夏眠場所の保全等を行っています。

また、イカナゴは高水温に弱く、夏になると湾口付近の冷たい砂場に潜って夏眠し、活動を停止します。しかし、海水温の上昇によって冷たい砂場が少なくなると、潜っている間に暑さで死んでしまったり、弱ってしまったりすることがあるようです。

環境省・農林水産省・国土交通省の連携事業として実施された「地域適応コンソーシアム事業」では、気候変動による海水温の上昇が瀬戸内海のイカナゴに与える影響の将来予測を行っており、イカナゴの生存率は海水温が上昇するほど低下する傾向にあるとしています。

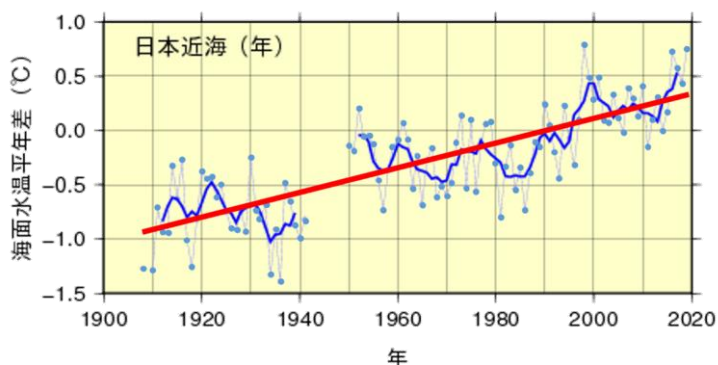
2 海水温の上昇による魚種の変化

日本近海における2019年までのおよそ100年間にわたる海域平均海面水温(年平均)の上昇率は、+1.14°C/100年となっています。

気候変動による海水温の上昇は、海の生態系に大

きな影響を与えています。近年、全国的にイカやサケなどの不漁が聞かれるようになりました。一方で、以前は見られなかった南方系の魚が釣れるようになっています。

海水温の上昇による水産業への影響は様々な魚種で明らかになりつつありますが、現状では知見不足により不確実性が高い分野で、今後の研究による成果が期待されています。



日本近海の全海域平均海水温(年平均)の年差の推移(気象庁Webページの図を一部加工)

※図の丸は各年の年差を、実線は5年移動平均値を表します。太い実線は長期変化傾向を表します。年差は1981年~2010年の30年間の平均値です。

3 「気候変動の影響への適応に向けた将来展望

ウェブ検索ツール」の紹介

農林水産省では、2016年度~2018年度の3ヶ年において、「農林水産分野における地域の気候変動適応計画調査・分析事業」を実施しました。その成果として、「気候変動の影響への適応に向けた将来展望」をまとめ、本ツールを一般に提供しています。今後、気候変動が進んでいく中で、産地等が「どの時点で」「どのような」適応策に取り組む必要があるのか、参考にしてみてはいかがでしょうか。

(<https://www.adapt.maff.go.jp/adapt/index.html>)



環境調査センター 企画情報部
気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

「SDGs AICHI EXPO 2020」を開催しました



SDGs 達成に向けた機運醸成を図るため、「SDGs AICHI EXPO 2020」(主催: SDGs AICHI EXPO 実行委員会(会長 愛知県知事))を2月5日(金)・6日(土)にオンラインで開催しました。

活動について、公式サイト上で紹介する「オンライン出展」を実施しました。

各企業・団体とも、動画や写真等を用いてわかりやすく取組の紹介を行いました。

【オンラインイベント】

2月5日はビジネス層向けに、ジャーナリストの池上彰^{いけがみあきら}さんによる講演や水素シンポジウム、企業におけるSDGsの取組紹介、ESG投資のセミナーなどを行いました。



池上 彰 さん

2月6日はファミリーや若者向けに、トレンドエンジェルを始め吉本興業所属のお笑い芸人による、SDGsを題材にした漫才・コントなどトレンドエンジェルを行いました。



トレンドエンジェル

両日とも大変ご好評いただき、最大同時視聴数は約800名でした。

また、ご覧になった方からは、「SDGsやESG投資の講演・セミナーが聞けて大変勉強になった」「子どもにもわかりやすい内容で良かった」などのご感想をいただきました。

【My SDGs 宣言】

本イベントでは、ご覧になった方が「今日からはじめてみたいSDGsアクション」を自由に記載できる『My SDGs 宣言』のWebページを用意したところ、「エコバッグ、タンブラーなどを持ち歩くようにする」「食品ロスをなくすため、食べられる分量を考えて調理し、ご飯を残さないようにする」「改めて家庭・会社で節電を意識する」など多くの宣言が寄せられました。

「SDGs AICHI EXPO 2020」を通じて、広く県民にSDGsの理解を深めていただくとともに、SDGsに取り組む様々な主体のパートナーシップ構築のきっかけとすることができました。

なお、本イベントは3月7日(日)まで、一部を除き公式サイトで視聴することができます。(https://sdgs-aichi.com/)



2021年秋に予定している「SDGs AICHI EXPO 2021」は、リアルとオンラインで開催し、よりSDGsを実感できるイベントにしていきます。

【オンライン出展】

SDGsに率先して取り組む、約100の企業・団体の

環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)

※ 掲載の研修会やイベントは、新型コロナウイルス感染症などにより、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
2021年3月1日発行(第298号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流 7-6
電話 052-908-5112(ダイヤルイン)

編集後記

今年度も残りわずかとなりました。この1年、コロナ禍での混乱や変化に心身が疲れてしまった、という方も多いと思います。そこで今おすすめしたいのが、春の緑や花に癒されることです。街路樹や花壇の花も春になり新たな葉や花をつけています。この春は三密を避けながら散歩に出かけ、今まで気付かなかつた身近な自然に癒されてはいかがでしょうか。

(企画・編集チーム)

※ 「環境かわら版」は、環境局Webページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>に掲載しています。「あいちの環境」は右のQRコードからアクセスできます。 ※ QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。